

ソーシャルワーク論 I

担当教員 後藤 秀昭

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について理解できる。
2. ソーシャルワークの概念と範囲、理念について理解できる。
3. ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と範囲について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会の特性から、地域生活における課題を理解させる。
2	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、各身分法の定義と役割から理解させる。
3	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、法制度見直しの背景や義務から理解させる。
4	社会福祉士、精神保健福祉士の専門性を理解させる。
5	ソーシャルワークの概念を、国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の定義から理解させる。
6	ソーシャルワークの構成要素を、知識、技術、価値の側面から理解させる。
7	ソーシャルワークの形成について、基礎確立期をもとに理解させる。
8	ソーシャルワークの形成について、展開期をもとに理解させる。
9	ソーシャルワークの形成について、統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークから理解させる。
10	ソーシャルワークの実践について、理念と価値や判断から理解させる。
11	ソーシャルワークの理念として、人権尊重と社会正義、利用者本位、尊厳の保持から理解させる。
12	ソーシャルワークにおける権利擁護の背景・定義・種類・システムを理解させる。
13	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と実践を理解させる。
14	自己決定と自立支援、エンパワーメントとストレンクス視点を理解させる。
15	ノーマライゼーションや地域生活支援、ソーシャル・インクルージョンを理解させる。

【履修上の注意事項】

毎回講義資料を配布するので、授業後はテキストの内容とともに復習し、理解しておくこと。
また、授業終了時には次回の授業の展開を予告するので、事前配布の資料を予習しておくこと。

【評価方法】

授業時に指定した課題レポート（1課題10%以内の範囲）および定期試験（課題レポート評価を除いた配点）の合計で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規（最新版）

【参考文献】

太田義弘『ソーシャルワーク実践と支援科学』相川書房, 2009.
室田保夫『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房, 2010.